

派遣留学生帰国報告書

* 復学後の情報を入力してください

記入日	2015年7月6日		
所属学部	法経学部		
所属学科・専攻	法学科	学年	3

1. 留学先について

留学先大学名	ニューヨーク州立大学ストーニブルック校		
留学先所属学部等	教養学部政治科学専攻		
留学期間	出発日 2014/8/17	入学日 2014/8/25	修了日 2015/5/20 帰国日 2015/5/29
住居	<input checked="" type="checkbox"/> 大学の寮 <input type="checkbox"/> アパート等 <input type="checkbox"/> ホームステイ <input type="checkbox"/> その他 ()		
	通学時間	10分程度	<input checked="" type="checkbox"/> 大学の紹介・あっせん
	通学方法	徒歩か大学が運行しているバス	
	部屋のタイプ	<input checked="" type="checkbox"/> 個室 <input type="checkbox"/> ()人部屋 <input checked="" type="checkbox"/> 共同スペース有 (キッチン・リビング・トイレ・シャワー) <input type="checkbox"/> 無	
食事	自炊 60 %	学食 40 %	外食 0 % その他 () *%で記入してください
保険	海外旅行保険(名称)	AIU 海外旅行保険	
	大学指定の保険(名称)	HTH Worldwide Insurance Services	<input checked="" type="checkbox"/> 強制加入
	その他		
渡航ルート	ex.) 成田⇔シカゴ(飛行機)⇔ウィスコンシン(電 成田 ⇔ ニューヨークシティ(飛行機) ⇔ ストーニブルック(電車)		

3. 学業面 *必ず留学先の成績証明書と単位の互換認定が反映された千葉大学成績証明書を提出すること。

履修科目名 *全て。足りない場合には別紙に記入してください。	種類 ^{ex.} 正規、聴講	単位数	単位認定の有無	
1 Introduction to American Government	正規	3	<input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無
2 Introduction to Comparative Politics	正規	3	<input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無
3 Politics of Race	正規	3	<input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無
4 American Society and Culture	正規	3	<input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無
5 Voters and Election	正規	3	<input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無
6 Mass Media in American Politics	正規	3	<input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無
7 Civil Rights and Civil Liberties	正規	3	<input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無
8 Elements of Statistics	正規	3	<input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無
9 Modern European History (1789-1945)	正規	3	<input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無
10			<input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無
11			<input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無
12			<input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無
13			<input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無
14			<input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無
15			<input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無
16			<input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無
17			<input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無
18			<input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無
19			<input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無
20			<input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無

3-1. 授業科目の選択、登録方法

*登録時期や千葉大学と異なる方法で登録する場合など具体的に説明してください。

授業を選択する際はまず所属学部のウェブサイトに掲載されているコース案内を見る。その際クラスごとに番号で分類されていて、100番台は初級、200番台は中級、300番台以上は上級編の講義というようになっている。教授によっては個人のウェブサイトで過去のシラバスを見ることができ、専攻のウェブサイトに貼ってあるリンクから検索しておくことも大切だ。200番台以上の講義は基本的に履修条件が設けられている。これは学年や以前取っていた講義を元に決められている。交換留学生の場合履修条件を満たしていることを証明することが大切であり、千葉大学の成績証明書を英訳したものを持って行き、それを元に交換留学プログラムのコーディネーターや専攻ごとのコーディネーターの方に相談することが必要となる。語学、数学に関してはプレイスメントテストを受けて合格点を満たせば受講が認められることもある。履修したい講義が決まったら、大学のSOLARというウェブサイト上で登録をする。期間は学期の始まる4か月前ごろから一か月間ほど設けられていて、学期が始まってから一週間ほどは変更が認められている。この時すでに登録が定員に達している場合は受けられないか、キャンセルリストに名前を登録しておいて待つという二つの手段がある。交換留学生は現地の正規学生の後に登録することになるため、取りたい講義は取りづらいかもかもしれない。

3-2. 授業内容、方法に関して

ストーニブルック大学での講義はどれも内容の濃いものだった。一学期間に受講できる講義が5つ程度と千葉大と比べて少ないのはその証拠である。千葉大での講義はインプット中心で講義を受ける中で理解していく形だが、ストーニブルックではインプットとアウトプットの両面が重視されていたように思う。そのため教科書や参考文献を読み、メモを作っておく等の準備はやるべきであり、現地の学生を見るとそれが習慣付いていた。教室では積極的に発言していく雰囲気があり、私もだんだんその空気に慣れて春学期には意見を言う回数が増えていった。また教授も発言を求めることが多いため、予習してきたことと教授の説明を元に自分なりの意見をまとめていくことが大切だったように感じる。その他には学期中に数回レポートを提出したり、中間・期末テスト等が設けられているため成績評価の場面は多い。学期末に近づくと専攻で行われる実験に参加すると評価が1ランク上がるなどの機会もあるため積極的に参加するとよい。

3-3. 語学力について

個人的には語学力が伸びたとは実感しづらいのだが、確実に言えることは留学前よりも英語を使ってコミュニケーションをとることが自然に行えるようになった。秋学期間は講義についていくのも友達とコミュニケーションをとるのも精一杯だった。これは留学前に日常で英語を使う経験が少なかったことが大きかったと考える。春学期になるとリスニング・スピーキング面で慣れてきたこともあり、英語で日常生活を送ることに苦勞を感じることは少なくなった。また英語だけではなく、言葉に対するの考えがこの派遣留学を通して変わった。留学前はさほど意識しなかったものの、9か月間母語ではない言語を使う環境にいたことで英語だけではなく改めて日本語についても見つめ直すことができ、丁寧な言葉づかいを心がけるようになった。これはストーニブルックで友人達と話す中で言葉づかいの重要性を痛感させられたことで意識が変わった。

3-4. 図書館など学内施設について

キャンパス内には勉強面、余暇面の両方をサポートするように様々な施設が用意されていた。勉強面では主なものとして図書館が挙げられる。開館時間が長く、また自習向け、グループ学習向けというように様々な用途に合わせたスペースが用意されているため、勉強したい学生にとってはとてもありがたい存在である。それ以外ではアジアン、メキシカンというように様々な料理をとることのできるフードコートがキャンパス内に数か所あり、バスケットボールなどをプレイできるコートやフィットネス施設の入ったRecreation Center、アメリカンフットボールチームの本拠地であるスタジアム、バスケットボールの試合やライブなどが行われるアリーナ、オーディトリウムやパーティの開かれるボールルームなどが入っているStudents Activities Centerなど広大なキャンパスにこれでもかと施設がある。これでもアメリカにある州立大学の中では施設面で劣るといえるのだから驚きである。

3-5. その他

4. 生活面 * 気づいたこと、心掛けたことなどをご記入ください。書ききれない場合には別紙等に続けてください。

4-1. 住居について

交換留学生であっても住居は自由に選ぶことができ、キャンパス内の寮に住むか、キャンパスの外にあるシェアハウスに住むかの大きく二つの選択肢がある。私は留学前にキャンパス外に住むことに不安があり、とりあえず寮に住むことを選んだ。このメリットはキャンパス内に住むことが出来たため、授業の間に部屋に戻って昼寝をするなど生活にゆとりが持て、また寮に住む友人と遊びに行ったりするなどコミュニケーションを多く取ることが出来た点である。ただデメリットとして月額12万円もするため、施設面などからして経済的だとは言えないところだろうか。交換留学生は基本的にWest Apartmentsという寮が割り当てられ、さらにシングルかダブルルームのどちらかに住むか選ぶことができる。私はシングルにしたため、プライベートの時間が取れたことが良かった。また、他にフラットメイトが5人いるため寂しいと思うことも少なかった。リビング、キッチン、シャワー、トイレは共用で、自炊することができる寮だったのも良かった。他の寮に住む学生は部屋にキッチンが無いため基本的にミールプランに入ってフードコートで食事を取るだが、基本的にその値段が高く、また栄養的にもバランスの悪いものだったため自炊した方が都合が良かった。

自炊にしろキャンパス内のフードコートで食べるにしても自分で栄養バランスを考えなくてはならず大変だった。アメリカの食生活というと不健康なイメージが先行しているが、実際は健康的な食生活もできる。要は自分次第だ。私は日本でも洋食中心だったためか、日本食が食べたいと思うのは3,4か月に一度あるかないかであった。というよりはニューヨークでは大根や適当な大きさのナスなど日本食に必要な具材を手に入れるのが難しく、また味もいまいちだったのでアメリカで良く食べられている料理を作って食べる方が経済的で味も良かったのだ。米を食べたいと思う時は基本的にメキシカンかハラールフードを食べていたので問題はなかった。

4-3. インターネット環境、携帯電話について

インターネット環境はストーニブルック、そしてアメリカ国内の他の都市でも日本より良かったように思う。大きな理由としてWi-fi環境を整備しているところが多かったことが挙げられる。大学の中ではどの施設でも学生なら無料で使えるWi-fiが完備されていたため困らなかった。またストーニブルック大で学ぶ学生はMicrosoft社などのソフトが自由に使えるためとても助かった。携帯電話は日本のものではなく、現地のT-mobileという会社の携帯を他に千葉大からストーニブルック大へ交換留学に来ていた方二人とファミリープランに入って使用していた。こうすれば料金も安く使うことができた。Wi-fiの環境が良かったため日本の携帯をそのまま使おうとすることもできるが、友人との連絡などがあるので現地で購入してしまった方が便利である。

4-4. 服装について

服装はニューヨークシティのような都市部ではおしゃれな人を多く見かけたが、ストーニブルック大のキャンパスの中ではみなラフな格好で行動している学生が多かったように思う。キャンパスにあるお店ではストーニブルックのロゴの入ったスウェットやTシャツなどが売られており、それを着る学生が多かった。私もつい購入して、ストーニブルック生(ちなみにSea Wolfという愛称がある。)気分を味わっていた。また私は日本から服をあまり持って行かず、向こうで調達したものも多かった。向こうは洋服の値段が日本よりも安いものも多い。また持って行くとすればストーニブルックから帰国する際に捨てていけるようなものを持って行くことを進める。荷造りの時かさばるのは案外洋服なので日本から持って行くものは捨てていけるような比較的安い値段のものを選ぶと便利だと思う。

4-5. 健康管理について

幸いにも私は一度も病院に世話になることなく帰国することが出来た。だが何回か風邪をひいたことはあった。気を付けていたこととしては自炊の際に栄養バランスに気を使うこと、運動を一日のサイクルの中に組み込むこと、気分転換の時間をとることの三つである。

4-6. 保険、OSSMAの利用 *利用実績等をご記入ください

前の欄で書いたように結局保険を使うことはなかった。万が一のため、出発前にAIUの海外旅行保険に入り、また大学が用意していた保険にも入っていた。大学側の保険はカバーされる金額や病気の範囲が限られていたため、もう一つ保険に入ることを検討した。保障内容を選べるものもあるため価格を抑えたいのならそちらを利用すべきだったのだが、何が起きるかわからず不安だったので一番保障の厚いAIUのものを選んだ。

4-7. 課外活動について

私は音楽が好きだったので、Stony Brook Ringersというハンドベルサークルに入った。活動としては週一回合奏があり、コンサートに向けて練習するといったものだった。大きなものとしては近くにあるSuffolk County Community Collegeのコーラス隊とのジョイントコンサートに参加した。ハンドベル自体は小学校の時に少しはやっていたものの初心者状態ではあったが、Ringersのメンバーが優しく教えてくれたため楽しく練習することができた。またメンバーとも一年を通し仲を深めることが出来、本当に分かれるのが辛かった。またJapanese Student Organizationという日本人学生と日本文化に興味のある現地学生が集まる団体にも登録はしていたが、こちらにはあまり行かなかった。これとは別にJapanese Minorで募集していた日本語チューターを春学期にやっており、それを通して日本語を学ぶ学生と交流できたのは私にとって刺激的であった。

4-8. 学外のコミュニティとの交流について

学外とのコミュニティとの交流はあまりなかったため、基本的にはキャンパスで知り合った友人との関係が主であった。ただ、千葉大からストーニブルックへ一緒に派遣留学に来た友人に誘われ近くに住む方にクリスマス料理をごちそうになったこともあった。また、父が仕事でよく東海岸の都市に出張していた関係で仕事上お世話になった方のお宅に春休み遊びに行ったり、コンサートに連れていってくださり、充実した時間を過ごすことが出来た。

4-9. 日本から持参してよかったもの

まずは日本らしいお菓子だろうか。私は抹茶味のキットカットを持って行った。小分けできるので友人にも配りやすいし、チョコレートなので受け入れやすい味だったようで好評だった。また出発する前に所属する学部の学務にお願いし、前期の成績証明書を開示してもらうことも大切だ。二学期間留学する方は春学期に秋学期よりも発展的な内容を扱う講義を受けるようスケジュールを組むと思うのだが、私はこれを持って行かなかったためPrerequisiteを満たすのに苦労した。そして関数電卓などの文房具や電子機器は現地に丁度いいものがなかったり、値段が日本よりも割高であることが多いので日本から持って行くことを勧める。

4-10. 日本から持参しなくても良かったもの

調味料や調理器具はいらない。留学先で日本料理をふるまいたいと思う学生も多いとは思いますが、アメリカであればどんなスーパーでもキッコーマンの醤油やみりんなどは簡単に手に入る。またニューヨーク州では民族の特色に合わせたスーパーマーケットが多く、アジアマーケットに行けば日本料理に用いる調味料や具材などもそろっているので心配は不用である。

4-11. 現地での対人関係について気づいたこと(習慣の違い、マナーなど)

日本よりも他人に対して優しく接する人が多かったように思う。ニューヨーク州はアメリカの中では人が親切ではないと言われているそうだが実際は困った時は助けてくれる人が多く、その暖かさに感動した覚えがある。ただ皆忙しいため言わなければ何も手伝ってはくれないが、それは日本でも同じではないだろうか。日本よりも自分で開け閉めをするドアが多いため後ろにいる人のために扉は開けておくことやレストランやホテルではチップを払うことは最低限マナーとして抑えておくべきだ。

4-12. 余暇の過ごし方

旅行 * 複数回出かけた方はすべての日程、行き先、費用等をご記入ください。

9/2-9/2 Washington D.C. \$90, 11/8-9, Atlantic City, Philadelphia \$80, 11/16-19, Buffalo, Niagara, Tronto \$150, 12/24-28 New York City \$0(家族旅行だったため), 3/16-19 Vienna (Virginia), Washington D.C., \$30(父の仕事で関係する方の家に滞在したのでほぼ経費は掛からなかった。), 5/20-5/29 Boston, New York City \$1600 (帰国前の旅行で貴重品を部屋に置いておくのが不安だったためホテルに滞在。そのため価格は割高に。)

その他

5. 報告

5-2. 留学先大学について

ニューヨーク州立大学ストーニブルック校はニューヨークシティに隣接したロングアイランドにあるStony Brookという街にある総合大学である。文系・理系・芸術系など数多くの主、副専攻が置かれており、学生数は延べ三万人にも及ぶ。特にBiomedical Engineeringなど理系の学問の研究が盛んであり、ここに学ぶ留学生の数は多い。理系が強く、学費が安価、また様々なバックグラウンドを持つ人が暮らすニューヨーク州にあるとあって、キャンパス内では様々な人種の学生が共に学ぶ。特にアジア系の学生が多く、全体の約四割を占める。

5-3. 留学中の様子

ストーニブルックで過ごす時間を無駄にしたい一心で、様々なことにチャレンジしていた九か月間だった。留学前は新しいことをすることに消極的であったが、日本とは全く違う環境で暮らしていたことが吹っ切れる契機となった。勉強面では様々なことを吸収できるよう努めた。もちろん講義は全て英語で行われるため理解度を上げるために予復習をすることは必須だった。それでも聞き逃すことがあったため授業後や教授が設けるオフィスアワーを使って分からないことは質問するよう心がけた。質問をしようとすることで習った内容を理解しようとする姿勢が強まり、質問したことだけでなく様々な話を教授とすることもできたため大変有効であった。また勉強以外でも充実した時間が過ごせるよう、ハンドベルの演奏グループに入り、休暇には友人と旅行に出かけた。様々な国から来た友人やアメリカで生まれ育った友人と過ごすことで楽しい時間が過ごせただけでなく、様々な視点を得られたように思う。余暇があるからこそ勉強にも力を入れることができた。九か月間は長いようで終わってみると短いように思える。だからこそ毎日を実りあるものにしようと思行動できたのではないか。

5-4. 留学希望者へのアドバイス

派遣留学に参加することで得られるものは計り知れない。もし挑戦したいと思うのなら実現できるよう行動すべきである。しかし派遣留学に参加しようか迷う際に障害となるものは多い。なるべく不安の材料を減らせるよう行動することが肝心だ。例えば金銭面での不安があるのなら親を説得する、アルバイトをしてできるだけ貯金しておくなどできることはあるはずだ。他方で留学への準備をすすめる際それを目指し気持ちが強く、周りのことに目を向けられなくなることもある。ここで一歩引いて状況を把握できるような心のゆとりを持つようにするとさらに良い。例えば留学の目的を明確にすることをすべきである。派遣留学に参加することはあくまで千葉大学で過ごす学生生活の選択肢の一つであり、参加するべきかどうかは人によって異なる。そこで自分がなぜ留学したいのかを他人に説得できるような理由を一つでも持つべきだ。私の場合はただ英語の能力を上げたいからではなく、千葉大学では学びにくい移民政策などの政治学の分野について二年生の早い時期から、そして移民の文化が入り混じるニューヨーク州にある大学で学びたいという思いからストーニブルック大学への留学を希望した。このような目標を考えるには少し冷静になる時間を持たなければ難しいように感じる。留学を目指す熱い気持ちと自分の置かれている状況を冷静に捉えられる心のゆとりを大切にしてほしい。

ストーニブルックで過ごした九か月間は私に今まで足りなかったものを教えてくれ、それらを受け入れて克服しようとした日々であった。

渡航前に抱いていた目標は英語を道具として勉強してみたいという漠然としたものであったし、留学に参加すること自体私を何か特別なものにしてくれるのではないかという期待を持っていた。留学生活は想像とは違うところが多かったものの、いい意味で私の視野を180度転換させてくれた。まず英語のスキルを上げたいという目標が、それに限らず言葉を大切につかえるようになりたいと意識が変化した。日本にいた頃英語をネイティブのように操ることのできる人に憧れ、そして留学を通して自分もそうなりたいと願っていた。事実英語を使ってコミュニケーションをとることは格段に上達したとを感じるが、それよりも気持ちを伝えることのできるようになりたいと思うようになった。留学中に友人と交わした会話、大学で受けた講義、テレビなど日常の何気ない時が私にとってはいい勉強となった。しかし、気持ちを表せるようになるのは同時に文法上正しい英語を身につけることよりも努力が必要であることを意味する。これは帰国したこれからの課題である。日本でも大学内にあるEnglish Houseに通うなど英語を日常で使う習慣をつけようとしている。

専門に関しては改めて勉強をさらにしなければならないと痛感させられた。ディスカッションで発言すること以前に政治学で常識とされるような概念やアメリカの政治について理解を足らず、まず意見が作れなかった。講義の予復習や周りの学生の意見を聞く、ニュースに触れる機会を増やしたことで春学期になると理解がさらに深まり、講義の中でも発言することができるようになった。これは秋学期の初め講義についていけないと履修をやめようとその教授の研究室に伺った時、講義を受け続けるよう諭されたことがある。英語で理解することは難しいのは分かっているがまずは努力をしなさいと言われ、そこから奮起して勉強していった。知らないうちに理解の深度が深まったと自覚したとき、初めはできなくともわかるように行動していけば変わるものだと思った。この気持ちはこれからも忘れず、千葉大でもっと勉強していく。また家族や知り合いのいないストーニブルックで過ごしたことで自分から行動することが必然と増えた。派遣留学であったため語学研修のように現地の方と交流する機会など現地に溶け込めるような機会は事前に用意されておらず、自分自身で動いていく必要があった。他人任せにすることの多かった私も、初めて一人で暮らす中で身の周りのことをやっていくうちに性格が変わったような気がする。とはいえ性格は変わりづらいものでもあるので、日本に帰国してからも積極的であろうと思う。

知識、ストーニブルックで出会えた友人など私が留学から得たものは多い。帰国したから留学を終わりとするのではなく、これからどう消化していくのかも大切なプロセスである。専門については留学中指導教官を引き受けてくださった教授の方の任意ゼミナールに参加し、移民に関する英語論文を読むことで知識をつけ、英語で勉強する環境を維持していきたい。また友人といる時間を大切にしていきたい。今まで友人がいるのが当たり前だった私にとって、帰国はストーニブルックで会った友人達と会いづらくなるためとても辛いものだった。これからは友人との時間を大切にしていきたい。それは改めて周りの人が私にもたらしてくれるものの大きさを留学を通して実感したからである。

お疲れ様でした

国際教育センター海外留学支援室 2015.2作成版